

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

10月上旬、平川・松川砂防工事促進期成同盟会が企画した研修視察に参加する。主な目的は、黒部溪谷の開発に伴って造り上げた土木構造物や発電施設や

トロッコ電車を利用した「インフラツーリズム」活用実態の視察だ。「インフラツーリズム」とは、近年新しい観光資源として注目を集めている公共施設等や土木景観を観光資源として位置づけ、実際に現地に赴き観光旅行する行為の和製英語だ。政府も訪日外国人旅行者の増加手段の一つの柱としている。現在、さまざまな地域でインフラツーリズムが行われ、小谷村でも砂防ツアーが実施されている。また黒部ダムや白馬ジャンプ競技場のように開発当初から観光客や社会科見学を想定し効果を上げている

のも大北地域の強みでもある。訪れたのは黒部深谷、立山連峰と後立山連峰に挟まれた深いV字谷で、その深さは1500メートルあり、人々をよせつけない秘境の

の始発駅・富山県宇奈月からトロッコ電車で終点の樺平駅で下車し、ツアーガイドの案内で専用電車に乗り換え、堅抗エレベーターで200メートル上り、上部駅から険しい登山道を

連邦を眺める体験をお勧めしたい。限られた施設と混雑を緩和するため3名のガイドが施設内容を説明しながら帰路の電車時間に合わせる知恵は、研修を充実させた。今年全国で



「インフラツーリズム」では、歴史を語るガイドが重要、参加者を次第に夢中にさせて行く

「インフラツーリズム」の視点で観光を見つめる事は、砂防工事にも大切な視点だ

地だった。しかし、黒部川は、水量が豊かで、水力発電に極めて適した条件を備えており、当初はアルミニウム製造に利用する電源開発が計画された。その工事資材運搬用として敷設された黒部専用鉄道

にも、砂防をインフラツーリズムとして取り入れ、更に砂防工事が全国モデルケースとなるような進捗が展開されないかと期待を抱いてしまう。今回の研修は、平川・松川流域地域関係者・議会関係者・砂防関係業務担当者・砂防関係者が参加。研修中での率直な意見交換をする貴重な機会に感謝だ。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)